



みみふくだより

令和3年5月25日発行
第2号

令和3年度 第1回みみふく学習会 報告

保護者を対象に、第1回みみふく学習会を実施しました。

- ★ 日 時 ★ 令和3年4月15日（木）
10:30～11:30
- ★ テーマ ★ 『「聞こえにくい」を体験しよう』

今回は、難聴疑似体験や補聴器の体験を通して、聞こえにくさへの配慮や補聴器のメリット・デメリットを考える機会としました。参加者からは、「聞こえにくいということがどういうことかよく分かった。」「子どもと視線を合わせて、ゆっくり話すことが大切なのだ」と実感した。」などの感想をいただきました。子どもたちを理解し、寄り添うための有意義な時間となりました。



令和3年度 第1回みみらんどセミナー 報告

医療・保健・福祉・教育関係者を対象に、第1回みみらんどセミナーを実施しました。

- ★ 日 時 ★ 令和3年5月14日（金）15:15～16:45
- ★ テーマ ★ 「はじめの一歩～聞こえにくい子どもに寄り添うために～」
- ★ 講師 ★ 福島県立聴覚支援学校 教諭 飯塚 和也氏
(自立活動支援センター長)

講師の飯塚先生から、聴覚障がい教育について、長年のご経験からご自身のエピソードをもとに具体的に教えていただきました。補聴器や人工内耳の特徴や聞こえにくいお子さんの言葉を育むための重要な視点など、日々の生活の中で大切にするべきことを再確認できました。聴覚障がいをはじめて学ぶ参加者にとっても、対象のお子さんや保護者に関わる際のヒントをたくさん得られた時間となったことと思います。



★ 内 容 ★ 「はじめの一歩～聞こえにくい子どもたちに寄り添うために～」

「聴覚障がい児に言葉を育てるために」
○脳までことばを届けられたら、ことばは育つ。



音韻情報を正確に脳に届けるための方法が聴覚障がい児に対する重要な配慮（専門性）となる。

ことばを脳にとどけるための配慮

①保有聴力を最大限に活用させる

- a 補聴器について
- b 人工内耳について
- c 騒音のある環境での配慮

②視覚的情報の活用

- a 読話
- b 文字
- c 手話

③ ことばを育てるために

- a 「あえて」新しい言葉を
- b 口声模倣・拡充模倣
- c 文脈法
- d 言語感覚を育てるかわり

学校生活で配慮すべきこと

話す時は子どもの方を向く

読話しやすい話し方

声の大きさ

話す人は、一人！！

表情・身振り

文字情報

話すテーマを先に提示

<参加された方々の感想> ※一部抜粋

- ★実際に難聴を体験してみて、はっとしました。
- ★あえて新しい、聞いたことのないようなことばを使ってみたり、丁寧に丁寧に接したりしていきたいと思います。
- ★（映像を見て）丁寧に関わることでこんなにも成長できるのだなあと感動しました。
- ★日々の学習の中でできること（配慮すること）を具体的に教えていただき、有意義な時間でした。ぜひ実践したいと思います。

ご参加ありがとうございました。



令和3年度 第2回みみらんどセミナー 案内

★ 日 時 ★ 6月23日（水）15：10～16：45

★ テーマ ★ 『コロナ禍における聴覚・言語障がいについて』

★ 講師 ★ 講師 東北福祉大学 教授 大西 孝志氏

★ 対象 ★ 医療、保健、福祉、教育関係者

◎聴覚支援学校本校（郡山市）での講演を、福島校を会場にリモートで行います。



連絡先 福島県立聴覚支援学校 福島校

地域支援センター 「みみらんど ふくしま」

TEL&FAX 024(531)5013

アドレス <https://fukushima-sd-fukushima.fcs.ed.jp>

